

KIYORA きくちの 社員紹介

製造部 技術開発担当

竹野光紀

今回紹介するのは製造部・技術開発担当の竹野光紀さん。今年で入社4年目の若手社員です！若手社員とはいいますが、昨夏にあの「炭酸水」事業を主導して見事商品完成に導いたのがこの竹野さんです！まさにKIYORAきくちの期待の星！竹野さんはいつも笑顔絶やさず、周りの雰囲気を明るくしてくれます。そんな竹野さんにインタビューしてみました！



普段はどんな業務をしていますか？

炭酸水に関する仕事をしています。炭酸水が開発されるまでは、炭酸水の研究開発が主な業務で、今は炭酸水の改良を重ねながら、お取引先との商談を進めたり、炭酸水の新工場を建てる準備をしています。炭酸水とは、シュワシュワする炭酸が入った水です。3年前から開発をはじめ、昨年の夏に初めて商品化しました。昨年は、テスト販売や展示会への出展をメインに動いてきましたが、冬のうちに量産態勢を整え、今年からは業務用としての卸しを始める予定です。今後、炭酸が入った水を目にする機会があれば、ほんの：ほんの少しだけ私のことを思い出して頂けると幸せです！（笑）。

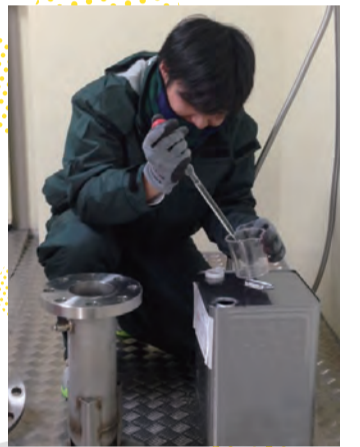
竹野さんから見て、KIYORAきくちはどんな会社ですか？

私は他の会社で働いたことがないので、たいしたことは言えませんが、すごく働きやすく、楽しい良い会社だと思います。一従業員としてKIYORAきくちを誇りに思います。まだ会社に入って間もない私からのびとやりたいことをやらせてもらい、言いたいことが言えるこの環境に感謝しています。お客様目線からものを考える会社ですので、「こんなものがあれば」とか「こういうふうにしてくれたら」というのがあれば、おっしゃってください。どんどん取り入れて、もっと良い会社にしていきます！



炭酸水を作る過程での苦労話などがあれば教えてください。

炭酸水の品質を安定させるために、いろんな条件での実験を繰り返しました。添加物・温度・凍結時間・圧力・炭酸量など、多くの要素を組み替えながらの実験で、膨大な量の試作を行いました。そのほとんどが、成果のあがらない実験で、辛い思いもしましたが、そのうえに成り立つ唯一の条件を見つけ出したときは、すべてが報われた瞬間でした。実験を繰り返す日々の、ある日の話です。二十歳の夏の日、わたしは、寒い冷凍庫にこもり、氷を砕いていました。友達からの海の誘いを断って、さむい部屋で氷を砕いていました。「もう二度と来ないハタチの夏、おれはいつたい何をしたいんだろう…。みんな海ではしゃいでるんだらうなあ…。いいなあ…。おつと、氷、砕かなきゃ。」自然と溢れてくる涙。暑い夏の日。ひとり氷を砕いている私がいるのです。



炭酸水が完成したときの率直な気持ちを教えてください。

ようやく商品としてお客様に提供できるカタチになったときは、すごく嬉しかったです！イベントに出店して、初めて炭酸水が売れた時には涙が出ました。とはいえ、炭酸水はまだまだ産まれたての赤ちゃんみたいな商品です。これからも皆様のお力添えをもって、立派な商品に磨いていきたいと思っています。

キヨラビ通信の読者に向けて一言お願いします。

実はキヨラビ通信編集長の吉田くんは、私の同級生で友達です。キヨラビ通信はどうでしょうか。お役に立っているでしょうか。不安で夜も眠れません。吉田くんとは、高校生のときに会って以来、一緒にずっとヘラヘラしておりました。何か、皆様にご迷惑をおかけした際には一緒に謝りに伺う覚悟でございます。水素水も炭酸水もキヨラビ通信も、お客様に喜んでいただくために、精一杯やらせて頂きます。今後ともよろしくお願ひ致します。



以上、竹野光紀さんでした！確か、僕はそんなにいつもヘラヘラしていません。なかつたと思うのですが…（笑）。今後も炭酸水の動向や新たな商品開発に期待したいと思ひます！

商品に歴史あり！

ナノ水素水KIYORABI(1/2)



ナノ水素水キヨラビが初めて発売されたのは今から約7年前。まだ、「水素水」という言葉自体が世間から認知されていなかった頃に発売されました。キヨラビは水素水の中でも草分け的な存在であったことは間違いありません。そんなキヨラビは実はある「勘違い」から生まれた商品なのです。

ある日、偶然口にした水素水の素晴らしさに感激し、「毎日飲みたい！」と思った大神社長は、実際に水素水を作っている場所へと訪れました。すると目の前には熱帯魚を飼う水槽が。この水槽の中で大神社長が飲んだ水素水は作られていたのです！大神社長は思いました…「これなら私でも作れる！」。そう、これが大きな「勘違い」。(笑)。すぐに変な形のポンプを買い、ガス会社に「水素ポンプください！」と電話！さすがの行動力。それからは水素水を製造販売する許可をもらうために保健所通い…。さらに莫大な資金が必要と判明…。「想像していたのと違う！」となったそうです(笑)。しかし、今さら後戻りする気などさらさらしない大神社長、水素水製造販売会社を興すべく爆走を始めます。

大神社長の実家は熊本県の中でも水質の良い菊池市にあります。これを利用しない手はないと、まずは実家の納屋でテスト製造を始めることに。ところが設備や機械類のことなど何も分からない大神社長。そこで、まともや体当たり。ネットで色んな会社を調べては飛び込み、頭を下げる日々。どうにか設備を整え、いろいろと支払いを済ませた後、気が付くと残金は400万円に。実はまだ肝心の会社を興していなかった大神社長…。一般的には先に会社を作ります(笑)。何はともあれ！その400万円を資本金として2008年にKIYORAきくちは設立されました。(つづく)

編集後記

キヨラビ通信へのご意見 ご感想をお待ちしております

キヨラビ通信へのご意見、ご感想をお寄せください。商品の体験談なども、お待ちしております。キヨラビ通信に掲載する場合があります。ペンネーム、年齢、性別をお知らせいただけると幸いです。

宛先 〒861-1303 熊本県菊池市今129-2 (株)KIYORAきくち 「キヨラビ通信」係

メール koho@kiyora-kikuchi.com
FAX 0968(41)4877

キヨラビ通信 2016年1月号
発行人 株式会社KIYORAきくち
編集 吉田健斗
校正 吉田斉巨

■内容について、無断で転載、複製することは禁じられています。

■お問い合わせについては、本社広報まで

(吉田健斗)